国際金融パネル「コロナ・ショックと国際金融市場」

日時：10 月 31 日 13:10～15:10
座長： 小川英治氏（東京経済大学） 副座長：吉見太洋（中央大学）

13:10～13:30 第一報告
「パンデミックは金融市場でのショックの伝播をどう変えたのか―今後の見通しと課題」
増島雄樹氏（ブルームバーグ）
13:30～13:50 第二報告
「新型コロナウイルス感染症と政策対応」
関根敏隆氏（一橋大学）
13:50～14:10 第三報告
「新興国向けの資本フロー：グローバル金融危機後とコロナ禍において」
大野早苗氏（武蔵大学）
14:10～14:20 休憩（質問受付）
14:20～14:50 ディスカッション
14:50～15:10 質問への返答

要旨：
本パネルでは、今般の新型コロナ・ウイルス蔓延を受け、国際金融市場にどういった変化が起きたのか、また各国の政策当局はそれにどのように反応し、各国の政策対応はどういった効果を持っていたのかについて、各分野の専門家を招いて議論する。新型コロナの感染については、今後少なくとも数年は経済への影響が続くとの予想がされている。また、感染収束後も、「アフター・コロナ」という形で社会や経済の構造にパラダイムシフトを迫るものであると論じられている。本パネルではこれまでの状況に関する総括を行うとともに、経済学的な観点から、今後どのような政策対応が行われていくべきかについても議論する。
第一報告では、ブルームバーグ・増島雄樹氏をお迎えし、コロナ・ショックを受けて、株・為替・債券といった金融マーケットがどのように反応したか、これまでの状況をご報告頂く。第二報告では、一橋大学・関根敏隆氏（日本銀行金融研究所前所長）をお迎えし、新型コロナ・ウィルスの世界的な感染拡大の中で、日本銀行がどういった金融政策を進めているのか、またコロナ・ショックを受けた国際金融市場の動きに対して、日本銀行がどういった見通しを持ち、どういった政策対応の必要性が議論されているのかについてご報告頂く。第三報告では、武蔵大学・大野早苗氏をお迎えし、新型コロナの蔓延及びそれに対する、米国の金融政策変更が新興市場国の資本フローへどのような影響を与えたのかについてご報告頂く。